

研究課題名	当院に搬送された腹部刺創 60 例の開腹適応と損傷臓器の後方視的検討
研究の意義・目的	腹部鋭的損傷に対する治療戦略はこれまで開腹術が主流でしたが、症状や全身状態次第では腹腔鏡を用いた探索も選択肢となります。当院では損傷臓器の見落としを回避するために原則開腹術を施行してきましたが、臓器損傷を全く認めない不必要開腹も一定数存在しました。当院に搬入された腹部刺創60例をまとめ、今後の治療方針について検討する必要があると考え、本研究を計画するに至りました。さらに、開腹が必要であった群と腹腔内に刃物が到達していましたが、臓器損傷がなく開腹が不要であった群を比較し、今後の治療指針の参考とします。本研究は後方視的検討であり、これまでも同様の研究は他施設でなされており、科学的合理性に問題はないと考えています。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2026 年 12 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2015 年 1 月~2024 年 3 月に大阪公立大学医学部附属病院の救命救急センターへ、腹部刺創のため受診された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、CT 画像、来院時バイタルサイン、受傷機転（自傷・他害・事故）、入院日数、治療内容、21 日時点での転帰、合併症
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科救急医学のみで行います。 【研究責任者】日村 帆志
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。そのことはありません。場合でも不利益を受ける

連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 救急医学 担当者氏名：日村 帆志 電話番号：(06) 6645-3987
------------	---